

「チーム三鷹の森」、2020年に向けてアタック！

三鷹の森 ソフトバレーボール実行委員会

昨年9月にCS委員が中心となり発足した「三鷹の森 ソフトバレーボール実行委員会」。五小・高山小の6・5年生を対象に参加児童を募集し、38名の選手が集まりました。実行委員会の呼びかけで集まってくれたボランティア コーチのもと、学年別に五小・高山小混合のチームに分かれ11月より毎週木曜・日曜に一生懸命練習を続けてきました。

- ◇平成28年度 チーム三鷹の森◇
- 5年生 2チーム 9名
- 6年生 5チーム 29名
- ボランティア コーチ 14名
- 実行委員 5名（うちCS委員2名）



井の頭住民協議会小学生ソフトバレーボール大会

1月9日は、選手たちにとって初めての試合。このころまでにはこの活動で初めて出会った違う学校のチームメイトたちとも和気あいあい。技術的にもとても上手になっていました。



2月19日 第18回 三鷹市小学生ソフトバレーボール交流大会

チーム三鷹の森の最終目標はここ！この大会では市内8校から集まったチーム（5年生13チーム・6年生23チーム）と優勝を目指して日ごろの練習の成果を競います。小学校の混合チームは三鷹の森学園のみです。3か月少々という短い期間の練習でしたが、選手たちは技術面でも精神面でも見違えるほどの成長ぶり。団結し、互いに励まし合い思いやるといのがチームプレイの基本。それらを選手たち自ら学ぶことが出来て素晴らしいチームとなりました。その成果は大会の成績にも表れ、チーム三鷹の森からは優勝2チーム、2位、3位が各1チーム。選手たちも心に残る貴重な体験ができました。

大会終了後、コーチからの「また参加したいですか？」の問いかけに5年生の大勢が「来年もまたやりたい！」と答え、6年生は「来年、大会は無いけれども来てもいいんだよ」の言葉かけに「来ようかな…」と答え、「今度は君たちが下級生を教えてあげてね！」とコーチが一言。

この活動に限らず、スポーツを経て子供たちが得るものは多いはず。2020年東京オリンピック・パラリンピック、その先の未来へ子供たちをつなげるため、実行委員会はこの活動をまず来年につなげていきたいと思ひます。最後になりましたが、ご協力いただきましたコーチの皆様、保護者の皆様、関係者の皆様へお礼申し上げます。



あすのつばさ

学園長：柳瀬 泰

会長：小山 雅巳

発行：広報部

三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会広報誌（CSだより29号）

三鷹の森学園のオリンピック・パラリンピック教育

東京都教育委員会は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」を子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、オリンピック・パラリンピック（以下オリ・パラ）教育を、都内全ての公立の学校で展開していくこととしました。

オリ・パラ教育は以下の4つのテーマ設定し、それぞれに4つのアクションを組み合わせて取り組んでいます。

4つのテーマ ①オリンピック・パラリンピックの精神 ②スポーツ ③文化 ④環境

4つのアクション ①学ぶ（知る） ②観る ③する（体験・交流） ④支える

オリ・パラ教育を通して、三鷹の森学園でも次のような児童・生徒の育成を目指しています。

- ・自己を肯定し、自らの目標をもって、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた児童・生徒
- ・スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた児童・生徒
- ・日本人としての自覚と誇りをもち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた児童・生徒
- ・多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる児童・生徒

の具体的な取り組みについて、3校の担当者に、各校の取り組みについて聞きました。



第五小学校
長田 邦弘

本校では、体育の授業で運動への関心や技能を高めることに加え、様々な教科でゲストティーチャーを招いてオリ・パラ教育を展開しています。今年度は以前から取り組んでいた琴の授業や車椅子体験の学習などに加え、三鷹市スポーツ推進委員の方による「ボッチャ」の体験や民族楽器アコーディオンによる「世界の音楽」に親しむ機会を設けました。また、私も先日シッティングバレーの講習を全日本の選手から学ぶことができました。今後、校内に広めていきます。

実際に体験したり、見たりすることで、スポーツの楽しさや自国や世界の文化の理解、障がい者理解を深めてほしいです。



高山小学校
渡邊 徳人

全校で映像資料を見て、オリンピック・パラリンピックの意義を知ることから、オリ・パラ教育をスタートしました。

花いっぱい運動や福祉体験など、以前からの取り組みに加え、障がい者スポーツを体験する機会を設け、より実感的にボランティアマインドを育成する試みを行っています。また、牟礼地区出身の女子トライアスロン高橋侑子選手をお招きし、実際に泳ぎを見せていただいたり、競技についてお話していただいたりすることで、子供たちのスポーツ志向を高めるきっかけ作りを行いました。6年生は社会科見学でJICAを訪問するなど、国際理解教育にも力を入れています。



第三中学校
松永 光貴

今年度は、生徒の五輪への関心や知識・理解を高めるきっかけを作るために本校の生徒昇降口付近にオリ・パラコーナーを設置しました。今年開催されたりオデッセイ五輪の新聞記事を開催しています。今後は、平昌五輪や東京五輪に関わる情報等を掲載していきます。また、第一学年では、「心のバリアフリー」をテーマに障がい者スポーツの体験講座を毎年実施します。今年度は、シッティングバレー、来年度はブラインドサッカーを予定しています。講師をお招きして、競技についてお話いただくだけでなく、実際に生徒も体験することを通して、共生社会の在り方について理解を深めることを目指します。

三鷹の森学園 「オリンピック・パラリンピック教育」の取り組みを紹介します。

「スポーツ」×「する」

1～3年では、体育の特別テニス体験授業を通して、ラケットスポーツを楽しみました。専用ラケット・ボールを使い、コーチの皆さん（セサミスポーツクラブ三鷹）の指導のもと、気分は錦織選手になって取り組んでいました。



「文化」×「知る」

6年音楽「世界の音楽に親しもう」では、日本の音階と西洋の音階の違いを感じ取る学習を行い、伝統楽器の箏や尺八の音色や旋律を味わいます。児童全員が箏を演奏する機会をもち、日本の良さを再認識しました。



「スポーツ」×「学ぶ」

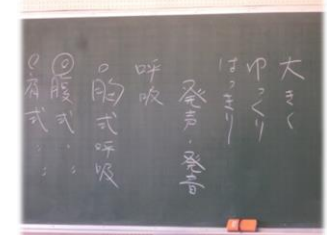
牟礼地区出身の女子トライアスロン高橋侑子選手をお招きし、競技のルールや魅力についてお話を伺いました。

自己記録を更新し続けるための練習方法や体調管理の大切さなど、プロ選手ならではの意識の高さに、児童は感心していました



「文化」×「学ぶ」

5年生は、講師に元日本テレビ放送アナウンサー・日テレ学院初代学院長の久保晴生先生をお招きして、「プロに学ぶ～正しい日本語の話し方～」のテーマでご指導していただきました。日頃、何気なく話していることに気付き、学んだことを意識して話す姿を期待しています。



「スポーツ」×「する」

三鷹市スポーツ推進委員の方々にご指導いただき、「ポッチャ」を体験しました。シンプルな競技なので、児童にとってルールが分かりやすく、すぐにプレーをすることができました。また、運動の得意不得意にかかわらず、誰もがチームで作戦を立てながら楽しく行っていました。



「文化」×「学ぶ」

JICAを訪問し、青年海外協力隊の活動や世界の貧困の現状を学びました。自分たちにできることやこれからの未来について考えました。世界の国々の問題や状況を、より身近に捉える意識が高まりました。



「オリ・パラ精神」×「学ぶ」

「手話サークル鷹の会」の方々をゲストティーチャーをお招きして、手話について学びました。自分の名前を手話で伝えたり、漢字を指で形作ったりする活動をしました。耳が不自由な人との触れ合いを通して、自分たちができることについて考えました。



「文化」×「学ぶ」

留学生を招いた授業を実施しました。国際社会に生きる日本人として、自覚とコミュニケーション能力を高めることを目的としました。

様々な異文化に触れることのできる貴重な時間となりました。



「オリ・パラ精神」×「支える」

地域の様々な行事や福祉施設のお手伝いなど、部活動を単位としたボランティアの生徒が活動に取り組みました。

自分のもっている力や時間を誰かのために提供するボランティア活動は、自分を成長させ、生き甲斐や達成感を与えてくれます。参加した生徒は、地域や人々を支えるオリ・パラ精神を体験を通して学びました。



「文化」×「学ぶ」

民族楽器アーティスト入江規夫さんをお招きして世界の楽器について学びました。世界の様々な楽器を目にして、子供たちは興味をもってお話を聞いていました。また、演奏を聴き、楽器の見た目と、音色のギャップに驚きや楽しさ、感動を味わっていました。

色々な楽器を実際に児童が演奏する機会もあり、民族楽器独特の世界観に浸ることができました。

